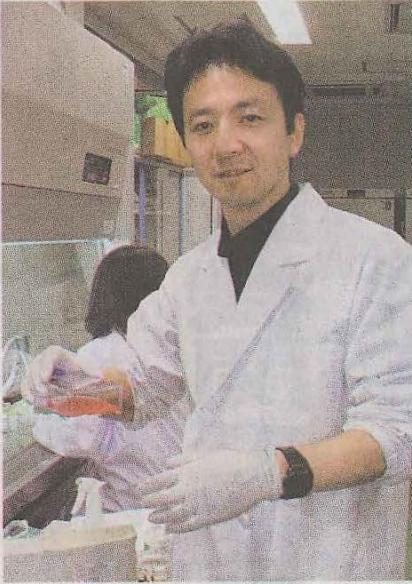


マラリア原虫の増殖抑制

帯畜大 物質作製、新薬に道



ている。

東大農学部との共同による同研究グループは、約2年間の研究を経て、糖類の一種で食品添加物などに使われる「ジエランガム」を基に「硫酸化ジエラン」と呼ばれる物質を作製した。

実験では原虫の増殖数の変化を比較するため、硫酸化ジエランなど数種類の糖類を別々に投与したものと、投与しない場合に分けて培養した。その結果、何も投与しなかった原虫の数が2日間で約5倍に増加したのにに対し、硫酸化ジエランを投与したものは約9割

帯広畜産大学(長澤秀行
学長)原虫病研究センター
の加藤健太郎特任准教授

(39)らの研究グループは、

熱帯地方を中心に多くの死
者が発生している熱帯熱マ

ラリアについて、病気を引
き起す原虫の増殖を抑制

する物質を新たに作製し
た。毒性などの副作用が小
さく、実用性が高いとされ、
新たな治療薬の開発に期待
が高まっている。

が高まっている。

新薬開発につながる成果
を上げた加藤特任准教授
(39)らの研究グループは、
一般的にマラリアは4種
類に分類される。中でも熱
帯熱マラリアは最も症状が
重く、感染すると高熱が続
き、意識障害となり、死亡
するリスクが高い。これま
でに予防、治療薬は多数開
発されているが、薬剤耐性
を持つ原虫も出現し、さら
なる薬剤の開発が求められ
た。

東大農学部との共同によ
る同研究グループは、約2
年間の研究を経て、糖類の
一種で食品添加物などに使
われる「ジエランガム」を基
に「硫酸化ジエラン」と呼
ばれる物質を作製した。

実験では原虫の増殖数の
変化を比較するため、硫酸
化ジエランなど数種類の糖
類を別々に投与したものと、
投与しない場合に分けて
培養した。その結果、何
も投与しなかった原虫の数
が2日間で約5倍に増加し
たのにに対し、硫酸化ジエ
ランを投与したものは約9割

減少した。また、他の物質に比
べ、血を固まりにくくする
性質や毒性が低いことも分
かり、実用性の高さを示
した。